

▶ ネスレ日本の物流可視化を実現する 「FourKites」の導入を支援

2023年6月13日



ネスレ日本株式会社は従前より海外拠点で利用していた「FourKites」を国内導入し、2023年6月より本番稼働を開始しました。本サービスを利用することで、輸送情報連携の効率化、運送状況の可視化による輸送効率の向上、人材の有効活用が期待できます。



▶ 南都銀行へ営業活動を自動支援するアプリ 「Vymo」を導入

2023年8月7日



株式会社南都銀行が、営業活動を自動支援するスマートフォン向けアプリケーション「Vymo」の利用を2023年8月より開始しました。本サービスの導入により、業務用スマートフォンを活かした訪問ルート支援やスピーディな活動記録等を実現し、営業活動をサポートします。



▶ 製造業の制御システム向けセキュリティリスクの 可視化サービスを提供開始

2023年8月30日



製造業向けOTセキュリティサービス「Fortinet OT スターターパック」の提供を2023年9月1日より開始しました。本サービスを通じて製造業におけるOTセキュリティ対策を強化し、更なる製造DX、デジタル化の推進と安心・安全なOTシステムの環境実現に貢献します。



トピックス

2023年7月10日

厚生労働省後援 日本の人事部
「HRアワード2023」に入賞



「働きやすさ」の促進・「働きがい」の醸成の2軸で、多岐に亘る人事施策を実施している点が評価され、今回の入賞となりました。



トピックス

2023年8月8日

転職・働き方メディア『ミライのお仕事』に、
記事が掲載されました。



「ミライのお仕事」に、弊社のカルチャーや働き方についてのインタビュー記事が掲載されました。



トピックス

2023年9月1日

「キャリアオーナーシップとはたらく未来
コンソーシアム」に 2023 年度第3期も参画



企業間での相互副業や外部活動等で得た知見を、キャリアオーナーシップ推進に活かしながら、今後の持続的な成長に向けた取り組みを実施していきます。



トピックス

2023年9月6日

日経NETWORK (9月号) に記事が掲載
「実験で解消!ネットワークの素朴な疑問」



第6回は、「LANケーブルの長さ」により通信の品質はどのように変化するのか?実験を行い、その実験結果も紹介しています。



変化するオフィス利用方法とWi-Fi設計見直しポイント

オフィスへの回帰とハイブリッドワーク

多くの企業が、出社をしなくても業務を継続できる仕組み作りをIT施策として直近2年ほど取り組んできました。Web会議・業務システムのクラウド移行・ペーパーレス化・リモートアクセス。そして、これらのセキュリティ対策。しかし、オフィス回帰への流れとハイブリッドワークに対して、オフィス内のネットワークインフラは以前に比べれば“出社する人が減った”のだからという理由で手つかずのままになっていませんか？現在ではコミュニケーションツールを業務の中核として、音声通話・Web会議・画面共有と

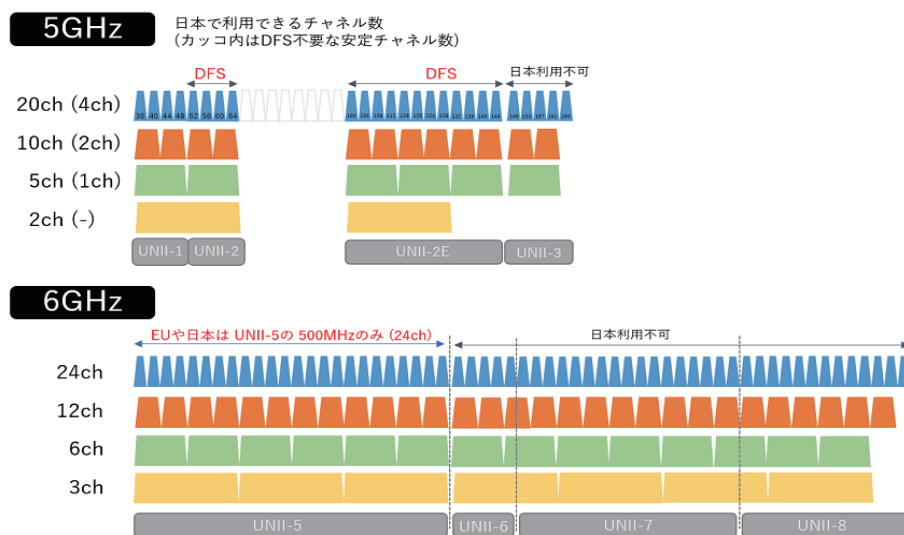
いった通信容量が大きく品質の高いリアルタイム通信が要求されるようになりました。時間帯によっては社内社外を問わずWeb会議があちこちで開催されており、コロナ禍前に比べてWi-Fi環境を過負荷にさせる要因となっています。また、Web会議のようなリアルタイム通信は僅かな通信異常が音声の途切れや映像の乱れといったユーザ体感を損なう挙動につながるため、社員からのクレーム件数が何倍にも膨れ上がるという運用面への影響も起きています。

救世主となるかWi-Fi 6E！？

Wi-Fi 6Eは2021年に認定が始まり、日本国内では2022年9月から利用できるようになった最新規格です。Wi-Fi 6を拡張することで2.4GHz/5GHzに加えて新しい周波数帯域6GHzが利用できるようになりました。

6GHzはグリーンフィールドと言えるほど他の干渉源が少なく、幅広い周波数を確保したことでチャンネルも最大59個利用することができます。残念ながら日本では今のところ24個までしか使え

ないものの、屋内利用ではレーダ検知による緊急停波も必要なく、安定利用ができるチャンネル数が24個というのは設計する上でも非常に心強いです。さらに、後方互換性を大事にしてきたWi-Fiとしては珍しく、Wi-Fi 6Eの6GHz帯は既存の古いデバイスでは利用できません。6GHzはWi-Fi 6E以降の最新デバイスでしか利用できないということは低速なレガシーデバイスに引きずられて無線空間が混雑しないということになります。



まとめ

ハイブリッドワークへ移行しつつあるオフィスでは、以前よりもインフラへの要求レベルが高くなり従来のWi-Fi設備を見直す必要性が出てきています。アクセスポイントの数を増やすだけでは、干渉し合うチャンネルの数がすぐに上限に達してしまい、思うような効果は得られません。Wi-Fi 6Eは複雑な新機能などでは

なく、シンプルな周波数拡張という方法によってチャンネル干渉問題を解消し、ハイブリッドワークの高負荷なオフィスインフラに相応しい進化を遂げたと言えるでしょう。新しいハイブリッドワークの要件に即したオフィスWi-Fiの見直しを始めてみてはいかがでしょうか。

本コラムの詳細はこちら

